

資源循環・環境工学専攻

人材養成および教育研究上の目的

資源循環・環境工学専攻においては、文理融合型大学院として環境分野における実践的教育による学力の向上と環境マインドを有する人材を育成することを目的とする。

三つのポリシー

❖ アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

資源循環・環境工学専攻は、将来資源循環・環境関連分野の研究開発および政策立案等に積極的に携わる目標を持つ人、あるいは国際機関を含む行政や企業の環境部門の技術職を積極的に目指す人を対象とした教育を行う。従って、入学においては学生や社会人また文系や理系を問わず、環境分野の基礎的な知識を有すれば環境問題解決への意欲を高く評価する。入学試験では筆記試験及び面接試験によってその基礎知識と意欲を判定する。なお、学部の成績優秀者に対しては推薦入試制度を設けている。

❖ カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

最初の半年間における導入教育として、集中講義・実地見学・討議・報告からなる共通必修科目の資源循環総合演習を設け、様々な環境問題の理解を深めるとともにコミュニケーション能力の向上を目指す。また、幅広い分野の特修科目や海外インターンシップも設け、国際化にも対応できる総合的視野を持った実践型の人材の育成を目指す。こうした科目の履修を踏まえ、6つある専修部門のいずれかに属して修士論文を作成することにより、専門分野の先端的な知識や技術を修得するとともに、総合的判断力を養うことに、重点をおく。

❖ ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

環境分野の技術者又は研究者としてのキャリアの出発点に立つことができるだけの基礎知識及び専門技術を有しているかを、単位取得状況並びに修士論文の内容及び発表会における発表と質疑応答から総合的に判断し、合格者に学位を授与する。

